

#### 4 土地・気象

### 6. 気象の状況

三面海に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島、及び伊豆半島と並んで温暖な地方である。しかし両総台地は内陸性気候で寒暖差はやや大きく、反対に太平洋及び内湾沿岸は海洋性の気候で比較的暖かい。

雨量は地域により差はあるが、房総丘陵の南側が多く、北西部は少ない。特に内湾沿岸は本県でも最も雨量の少ない地域である。

平成3年の気象の特記事項は次のとおりである。

2月15日、九州の西海上と四国の南海上にあった二つの低気圧の通過にともない、千葉県北西部に大雨、洪水警報が出され、習志野市では6棟が床下浸水した。

6月28日、梅雨前線の影響により大気の状態が不安定になって、千葉市、佐原市、及び小見川町周辺でひょうが降った。また、翌日も引き続き大気の状態が不安定で所々落雷と降ひょうがあった。このため、佐原市、小見川町、山田町などでさつまいも、梨等農作物の被害が発生した。

9月から10月にかけては、相次ぐ台風の来襲（15, 18, 19, 21号）のため長雨と日照不足の天候となった。10月の月降水量は、記録的に多く水稻の倒伏や冠水による被害、野菜類などでは着果不良等が見られたほか、農道の損壊や林地の崩壊など被害が発生した。

